

科目名	作業療法概論Ⅱ						
担当講師	竹田 敦子						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

臨床で必要な作業療法関連業務のなかでも特に記録、リスク管理、職業倫理を中心に確認し理解を深める。また臨床場面のイメージを持ちながら作業療法の流れを意識できることを目的とする。

学修到達目標

1. 作業療法に関連した記録について理解し使用できる
2. リスク管理や個人情報保護など作業療法業務に関連した内容を説明できる
3. 医療倫理や作業療法士に求められる資質、適性について説明できる
4. 作業療法業務の流れを通し作業療法の視点とその意味を意識できる

授 業 計 画

- 第1回 診療録と問題志向型医療記録について
- 第2回 SOAP演習①
- 第3回 SOAP演習②
- 第4回 SOAP演習③
- 第5回 SOAP演習④
- 第6回 作業療法とリスク管理①
- 第7回 作業療法とリスク管理②
- 第8回 作業療法とリスク管理③
- 第9回 作業療法職業倫理①
- 第10回 作業療法職業倫理②
- 第11回 症例を通して作業療法のプロセスを知る①
- 第12回 症例を通して作業療法のプロセスを知る②
- 第13回 症例を通して作業療法のプロセスを知る③
- 第14回 作業療法士に求められるものとは①
- 第15回 作業療法士に求められるものとは①

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

資料を中心に進めます

参考図書・文献

標準作業療法学 作業療法概論 第3版

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

作業療法業務をイメージし職業意識を高めると同時に、実際の実習場面に繋がられるよう実感できる場になればと考えます。

科目名	基礎作業学演習Ⅱ						
担当講師	植田 紀子 木村 裕 山川 志野						
実務経験の概要	植田 紀子 : デンマーク王立スカルス工芸学校に留学後、工房を設立し織物作品の製作、染織教室に携わっている。 木村 裕 : 南部焼不來方窯での陶芸作品の製作、陶芸教室に携わっている。 細越 友貴 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	45	開講時期	前後期
授業形態	講義 グループワーク 発表 実習 オムニバス						

授業概要

基礎作業学実習Ⅰの内容（作業分析・工程分析）を基に、各作業活動（織物・陶芸）を通し作業特性とその治療的応用・効果について学びます。

学修到達目標

1. 作業活動を通し、作業が人体に与える影響を体感し、それを述べることができる。
2. 作業を分析し、治療への応用とその効果について説明することができる。

授 業 計 画

第1回	作業実習	織物	緯糸の準備 織り	植田紀子
第2回	作業実習	織物	経糸の整経	植田紀子
第3回	作業実習	織物	箆通し	植田紀子
第4回	作業実習	織物	機たての準備	植田紀子
第5回	作業実習	織物	緯糸の準備 織り	植田紀子
第6回	作業実習	織物	織り	植田紀子
第7回	作業実習	織物	織り	植田紀子
第8回	作業実習	織物	仕上げ	植田紀子
第9回	作業実習	陶芸	土練り、やきものの成形（手びねり成形）	木村裕
第10回	作業実習	陶芸	土練り、やきものの成形（手びねり成形）	木村裕
第11回	作業実習	陶芸	やきものの成形（高台削り、仕上げ）、乾燥	木村裕
第12回	作業実習	陶芸	やきものの成形（高台削り、仕上げ）、乾燥	木村裕
第13回	作業実習	陶芸	やきものの成形（タタラ成形【巻き作り】）、乾燥	木村裕
第14回	作業実習	陶芸	やきものの成形（タタラ成形【巻き作り】）、乾燥	木村裕
第15回	作業実習	陶芸	やきものの装飾（絵付け、釉掛け）、焼成について	木村裕
第16回	作業実習	陶芸	やきものの装飾（絵付け、釉掛け）、焼成について	木村裕
第17回	作業分析（織物）	グループワーク		山川志野
第18回	作業分析（織物）	グループワーク		山川志野
第19回	作業分析（織物）	グループ発表		山川志野
第20回	作業分析（陶芸）	グループワーク		山川志野
第21回	作業分析（陶芸）	グループワーク		山川志野
第22回	作業分析（陶芸）	グループ発表		山川志野
第23回	まとめ			山川志野

評価方法

課題レポート 課題作品

教科書

基礎作業学（協同医書出版社） 作業－その治療的応用（協同医書出版社） やさしい陶芸テキスト（マール社）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

「ものを作る」楽しさを感じ、対象者の「主体的な生活の獲得」に作業が用いられることの意味を理解していただきたい。作品制作を指導する立場になること、作業要素を治療的に活用できるようになることを自覚して実習に臨んでほしい。

科目名	作業分析論Ⅰ						
担当講師	細川 康紀 高橋 正基 岡崎 謙治 竹田 敦子						
実務経験の概要	細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 演習 グループワーク オムニバス						

授業概要

作業分析はひとと作業の関係や作業の特性を分析することで作業療法士として対象者に係わる上での重要な要素です。それぞれの視点での分析を整理していきましょう。

学修到達目標

1. 作業療法における作業・作業活動の概念を理解する。
2. ひとと作業の関係や作業の特性を分析し、臨床で作業を活用するための思考・感性を身につける。
3. 日常生活活動を分析する視点を身につける。

授 業 計 画

第1回	作業分析とは 作業分析の歴史	細川康紀
第2回	人間作業モデル (MOHO)	細川康紀
第3回	MOHO (演習・発表)	細川康紀
第4回	包括的作業分析 (講義、演習)	細川康紀
第5回	人間工学的分析①	細川康紀
第6回	人間工学的分析②	細川康紀
第7回	人間工学的分析③	細川康紀
第8回	人間工学的分析④	細川康紀
第9回	技能別作業分析 (身体運動技能と作業分析の理論と方法) ①	高橋正基
第10回	技能別作業分析 (身体運動技能と作業分析の理論と方法) ②	高橋正基
第11回	技能別作業分析 (身体運動技能と作業分析の理論と方法) ③	高橋正基
第12回	技能別作業分析 (心理社会的運動技能と作業分析の理論と方法) ①	岡崎 竹田
第13回	技能別作業分析 (心理社会的運動技能と作業分析の理論と方法) ②	岡崎 竹田
第14回	技能別作業分析 (心理社会的運動技能と作業分析の理論と方法) ③	岡崎 竹田
第15回	技能別作業分析 (心理社会的運動技能と作業分析の理論と方法) ④	岡崎 竹田

評価方法

筆記試験 (60%) レポート (40%)

教科書

人と作業・作業活動(三輪書店)

参考図書・文献

標準作業療法学 基礎作業学(医学書院) 作業-その治療的応用(協同医書) 人間作業モデル(協同医書)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適宜提示された課題は確実に学習してください。

科目名	作業療法評価学Ⅰ（身体障害）						
担当講師	西城 学 竹田 敦子						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

身体障害領域の中でも主に高次脳機能評価、高齢期機能評価、上肢機能評価について取り扱います。それぞれの評価の概要と具体的な方法について学びます。

学修到達目標

1. 高次脳機能評価の概要を説明することができる。
2. 高齢期機能評価の概要を説明することができる。
3. 上肢機能評価の概要を説明することができる。
4. 種々の検査・測定の目的、特徴、方法を説明することができる。

授 業 計 画

第1回	オリエンテーション/脳の働きについて①	西城学
第2回	脳の働きについて②	西城学
第3回	高次脳機能評価①（意識・注意機能評価）	西城学
第4回	高次脳機能評価②（行為の評価）	西城学
第5回	高次脳機能評価③（認知の評価）	西城学
第6回	高次脳機能評価④（言語・記憶の評価）	西城学
第7回	高次脳機能評価⑤（遂行機能の評価）	西城学
第8回	高齢期機能評価①（認知・知的機能評価）	西城学
第9回	高齢期機能評価②（認知・知的機能評価）	西城学
第10回	高齢期機能評価③（介護保険関連）	西城学
第11回	上肢機能について	竹田敦子
第12回	上肢機能検査①（一般的な検査）	竹田敦子
第13回	上肢機能検査②（一般的な検査）	竹田敦子
第14回	上肢機能検査③（脳卒中片麻痺対象の検査）	竹田敦子
第15回	上肢機能検査④（職業能力としての検査）	竹田敦子

評価方法

筆記試験 100%（中間試験(50%) 期末試験(50%)）

教科書

標準作業療法学作業療法評価学（医学書院）

病気がみえる⑦脳・神経（メディックメディア） 病気がみえる⑩運動器・整形外科（メディックメディア）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後ともに30分以上の学習。

ルーブリックがありますのでそれをもとに学習を進めてください。

1年次の解剖学、生理学の知識が必要となります。復習をしながら取り組むこと。

科目名	作業療法評価学Ⅱ（身体障害）						
担当講師	高橋 正基						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

評価とは、すべての処置の先行として実施されるもので、治療・訓練・介入を行うための基礎であり不可欠な過程です。

ここでは、身体機能領域で基本的に活用される、諸々の検査目的・方法の理解と重要性の確認を行い、作業療法評価学演習と連動し評価の進め方を学びます。

学修到達目標

1. 評価の概要を理解し、検査・測定を含めた情報収集方法（検査・測定、面接、観察等）について説明できる。
2. 各種検査・測定の意義・目的・活用方法を説明できる。
3. 事例を通し評価の進め方を理解する。

授 業 計 画

- 第1回 観察法
- 第2回 面接法
- 第3回 関節可動域測定法（1）
- 第4回 関節可動域測定法（2）
- 第5回 徒手筋力検査法
- 第6回 脳神経検査（1）
- 第7回 脳神経検査（2）
- 第8回 反射検査
- 第9回 筋緊張、姿勢反射検査（1）
- 第10回 筋緊張、姿勢反射検査（2）
- 第11回 感覚検査（1）
- 第12回 感覚検査（2）
- 第13回 協調性検査（1）
- 第14回 協調性検査（2）
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

作業療法評価学（医学書院） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版）

参考図書・文献

ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適宜提示された課題は確実に学習してください。

科目名	作業療法評価学Ⅲ（精神障害）						
担当講師	岡崎 謙治						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習 実習						

授業概要

精神疾患を持つ対象者の作業療法評価における課題について理解を進めていく。「質」と「量」という視点、そして数値化することの意義や数値化することの課題について考えていく。そして人間の精神・心理現象をどのように捉えて表現していくかについて学んでいく。

学修到達目標

1. 精神現象を数値化することの意義と問題を考えることが出来る。
2. 実際に臨床で使われている評価スケールを使用し、データ化することが出来る。
3. 各種データを取扱い考察することが出来る。
4. 考察できた内容を日常生活における生活行為に結びつけることが出来る。

授 業 計 画

- 第1回 精神現象をデータ化することが出来るのか
- 第2回 データの普遍性・客観性・論理性と主観性・多義性・個別性について
- 第3回 データの測定の基礎
- 第4回 客観的なデータの収集と解析
- 第5回 健康をデータ化する ～精神現象のデータ化の基礎～
- 第6回 健康をデータ化する ～精神現象のデータの解析～
- 第7回 評価における侵襲性の課題、そしてその取り組みについて
- 第8回 作業療法面接の基礎
- 第9回 作業療法面接（ロールプレイ）演習1
- 第10回 作業療法面接（ロールプレイ）演習2
- 第11回 臨床における基本的な評価スケール（アセスメント）演習1
- 第12回 臨床における基本的な評価スケール（アセスメント）演習2
- 第13回 臨床における基本的な評価スケール（アセスメント）演習3
- 第14回 客観的なデータと主観的なデータの統合の整理
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（70%） 演習レポート（30%）

教科書

精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規出版）

参考図書・文献

作業治療学2 精神障害（協同医書出版） 精神障害と作業療法 新版（三輪書店）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

テーマに則した事前学習を期待します。

科目名	作業療法評価学Ⅳ（発達障害）						
担当講師	田中 弘美						
実務経験の概要	作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

発達障害領域の作業療法は、理論（現象の解釈・説明）→評価（現象を捉える方法）→治療（現象を変化させたりコントロールする方法）の流れで習得を図ります。評価では発達過程で様々な理由により障害を抱えた対象児の発達像を捉える方法を学びます。対象は発達の途上にあるすべての障害児であり、まずは発達のどの地点に到達しているか、疾病の特性ゆえに抱える機能の障害、そして対象児自身より対象児を取り巻く環境の評価が重要です。発達過程作業療法の評価は多面的な視点から全体像をとらえる知識と技術が必要です。

学修到達目標

1. 発達障害を対象とした作業療法の基本的な評価の流れについて説明できる。
2. 代表的な疾患に対する作業療法評価の検査法を列挙できる。
3. 代表的な疾患に対する作業療法評価の検査法を実施できる。
4. 発達障害の代表的な疾患例に対して必要な評価プログラムを立案できる。

授 業 計 画

- 第1回 情報収集・面接
- 第2回 観察
- 第3回 発達検査の目的と留意点
- 第4回 発達全般の評価
- 第5回 運動機能の評価 1 反射・反応と運動発達
- 第6回 運動機能の評価 2 一般的検査法
- 第7回 感覚統合機能の評価 1 感覚統合関連検査
- 第8回 感覚統合機能の評価 2 感覚統合関連検査演習
- 第9回 視知覚・視覚認知機能の評価
- 第10回 知能・認知機能の評価
- 第11回 行動・作業遂行・身辺処理の評価
- 第12回 摂食機能の評価
- 第13回 疾患・障害による評価の選択
- 第14回 評価計画の立案
- 第15回 評価結果の解釈と統合

評価方法

筆記試験（60％） 小テスト（30％） ノート整理（10％）

教科書

標準作業療法学作業療法評価学（医学書院）

参考図書・文献

イラストで見る発達障害の作業療法（医歯薬出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

評価の視点で基本となるのは「正常発達」です。人間発達学の知識を振り返るとともに、各発達領域の正常発達の理解をさらに深めてください。

科目名	作業療法評価学演習Ⅰ						
担当講師	高橋 正基 竹田 敦子						
実務経験の概要	高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	演習 実技 グループワーク オムニバス						

授業概要

評価とは、すべての処置の先行として実施されるもので、治療・訓練・介入を行うための基礎であり不可欠な過程です。
ここでは、身体機能領域に用いる作業療法評価の重要性を認識し、諸々の検査目的・方法の確認・実技演習を行い、技術習得を目指します。

学修到達目標

1. 評価の概要を理解し、検査・測定を含めた情報収集方法（検査・測定、面接、観察等）について説明できる
2. 各種検査・測定の意義・目的の説明と実施ができる。
3. 事例を通し身体機能領域の評価の進め方を説明できる。

授 業 計 画

第1回	作業療法評価の概要、観察	高橋正基
第2回	面接	高橋正基
第3回	関節可動域測定【上肢、手指、下肢、頸部、体幹】	高橋正基
第4回	関節可動域測定【多関節筋、変形存在時の対応】	高橋正基
第5回	徒手筋力検査【肩甲帯、肩に作用する筋】	高橋正基
第6回	徒手筋力検査【肘関節・前腕・手関節に作用する筋】	高橋正基
第7回	徒手筋力検査【手指・股関節に作用する筋】	高橋正基
第8回	徒手筋力検査【膝関節・足関節・足指に作用する筋】	高橋正基
第9回	徒手筋力検査【体幹・頸部に作用する筋】	高橋正基
第10回	徒手筋力検査【表情筋等】	高橋正基
第11回	脳神経の評価【検査方法】	高橋正基
第12回	脳神経の評価【検査方法】	高橋正基
第13回	反射検査【検査方法、記載法：深部反射・病的反射】	高橋正基
第14回	筋緊張、姿勢反射検査【検査方法】	高橋正基
第15回	感覚系の評価【検査・記載方法：表在感覚】	高橋正基
第16回	感覚系の評価【検査・記載方法：表在感覚、深部感覚】	高橋正基
第17回	協調性検査【検査の概要、方法】	高橋正基
第18回	協調性検査【検査方法】	高橋正基
第19回	まとめ（総復習）	高橋正基
第20回	上肢機能について【3つの要素・協調動作等】	竹田敦子
第21回	上肢機能検査法の概要【STEF、MFT、一般職業適性検査を中心に】	竹田敦子
第22回	上肢機能検査の実際1	竹田敦子
第23回	上肢機能検査の実際2	竹田敦子

評価方法

高橋分：80%（実技試験 30%、筆記試験 70%） 竹田分：20%（筆記試験 100%）

教科書

作業療法評価学（医学書院） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版）

参考図書・文献

ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適宜提示された課題は確実に学習してください。技術の習得には日々の研鑽が不可欠ですので復習を怠らないようにしてください。

科目名	作業療法理論Ⅰ（身体障害）						
担当講師	細川 康紀						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

この科目では解剖学・生理学・運動学を踏まえながら身体機能について再確認し、疾病等に伴う身体機能障害の理解を深めどのような考え方に基づき身体状況を把握・介入（訓練・援助等）していくのかを学びます。

学修到達目標

1. ボディメカニクスについて説明できる。
2. 関節可動域制限の理解とそれに対する対応（訓練）を説明できる。
3. 筋力・筋持久力低下の理解とそれに対する対応（訓練）を説明できる。
4. 筋緊張異常の治療に必要な知識と手技を説明できる。
5. 不随運動の治療に必要な知識と手技を説明できる。
6. 知覚障害の理解と知覚再教育の原理と方法について説明できる。
7. 協調運動障害の治療に必要な知識と手技を説明できる。
8. 運動制御と運動学習について説明できる。
9. 廃用症候群への対応に必要な知識について説明できる。
10. 物理療法の概要を説明できる。

授業計画

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 身体機能に対する作業療法の概要 |
| 第2回 | ボディメカニクス1 |
| 第3回 | ボディメカニクス2 |
| 第4回 | 関節可動域障害の理解・対応1 |
| 第5回 | 関節可動域障害の理解・対応2 |
| 第6回 | 筋力・筋持久力低下の理解と対応1 |
| 第7回 | 筋力・筋持久力低下の理解と対応2 |
| 第8回 | 筋緊張異常・不随運動1 |
| 第9回 | 筋緊張異常・不随運動2 |
| 第10回 | 知覚障害の理解と知覚再教育1 |
| 第11回 | 知覚障害の理解と知覚再教育2 |
| 第12回 | 協調運動障害の理解と対応1 |
| 第13回 | 協調運動障害の理解と対応2・運動制御と運動学習 |
| 第14回 | 廃用症候群 |
| 第15回 | 物理療法概要 |

評価方法

筆記試験 100%（中間試験（50%） 期末試験（50%））

教科書

身体機能作業療法学（医学書院）、病気がみえる7（脳・神経）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適宜提示された課題は確実に学習してください。

科目名	作業療法理論Ⅱ（身体障害）						
担当講師	西城 学						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

作業療法において理論は実践での活用、専門職としての意義を示す意味でも重要となります。作業療法の原点とパラダイムの変遷を理解したうえで、種々の理論やプロセスモデルを知り、どのように実践で活用することができるかを学びます。

学修到達目標

1. 作業療法における理論の必要性を理解し、説明することができる。
2. 理論の背景となる考え方や分類について説明することができる。
3. 各理論の特徴、適応、評価・介入について説明することができる。
4. 事例を用いて理論を活用し記述的に説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 理論と作業療法 |
| 第2回 | 作業療法理論の背景 |
| 第3回 | 理論の分類 |
| 第4回 | 作業に根ざした実践2.0（OBP2.0） |
| 第5回 | 作業科学 |
| 第6回 | 人間作業モデル |
| 第7回 | 人間作業モデル（事例検討） |
| 第8回 | カナダモデル |
| 第9回 | カナダモデル（事例検討） |
| 第10回 | 川モデル |
| 第11回 | 作業適応理論 |
| 第12回 | ポジティブ心理学/作業療法介入プロセスモデル（OTIPM） |
| 第13回 | 生活行為向上マネジメント（MTDLP）① |
| 第14回 | 生活行為向上マネジメント（MTDLP）② |
| 第15回 | 生活行為向上マネジメント（MTDLP）③ |

評価方法

筆記試験（80％） 課題等提出物（20％）

教科書

作業療法理論の教科書（メジカルビュー社）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とも30分以上の学習。

科目名	作業療法理論Ⅲ（精神障害）						
担当講師	岡崎 謙治						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 演習						

授業概要

人間の精神現象は複雑である。客観的な視点（普遍的）と主観的な視点（個別的）な視点としてとらえる基礎について理解をしましょう。作業療法は科学である。この科学という視点を忘れずに理解していくことを共有してきましょう。

学修到達目標

1. 解剖学的な視点で脳の構造を理解できる
2. 精神現象としての脳の構造を理解できる
3. 行動理論についての理解ができる（刺激反応としての理解）
4. 認知と行動についての基礎を理解することができる

授 業 計 画

- 第1回 脳の機能解剖的な理解 1 ～解剖学的な視点～
- 第2回 脳の機能解剖的な理解 2 ～生理学的な視点～
- 第3回 心理現象の理解(科学的な視点) 1 ～学習理論の基礎～
- 第4回 心理現象の理解(科学的な視点) 2 ～フロイト理論の基礎 1～
- 第5回 心理現象の理解(科学的な視点) 3 ～フロイト理論の基礎 2～
- 第6回 心理現象の理解(科学的な視点) 4 ～発達理論の基礎～
- 第7回 精神機能と認知① ステレオタイプ、タブロイド思考 とは？
- 第8回 精神機能と認知② プレグナンツの法則とゲシュタルト
- 第9回 精神機能と認知③ メタ認知と認知の歪みについて
- 第10回 精神機能と認知④ 認知とは 1
- 第11回 精神機能と認知⑤ 認知とは 2
- 第12回 精神現象の科学 診断と精神疾患 1
- 第13回 精神現象の科学 診断と精神疾患 2 ～操作性診断と多軸性診断～
- 第14回 コミュニケーションの理解について
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験（70％） レポート課題（30％）

教科書

精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規出版）

参考図書・文献

作業治療学 2 精神障害（協同医書出版）、精神障害と作業療法 新版（三輪書店）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

疑問に感じた点に関しては、質問すること。課題を持ち越さないことに留意してください。

科目名	作業療法理論Ⅳ（発達障害）						
担当講師	田中 弘美						
実務経験の概要	作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

発達障害領域の作業療法は、理論（現象の解釈・説明）→評価（現象を捉える方法）→治療（現象を変化させたりコントロールする方法）の流れで習得を図ります。理論では現象を解釈しシステムやメカニズムとして説明できるために以下の理論を教授します。1）神経発達学的理論による正常運動発達の神経学的機構 2）社会性の発達理論による社会適応行動の発達過程 3）感覚統合理論による感覚入力・統合・高次脳機能の発達過程 特に作業療法の基盤として「作業」に焦点を当てた作業療法理論の原理を踏まえ、Mosey、Ayresの理論を説明します。

学修到達目標

1. 専門職として理論を用いる意義や必要性を説明できる。
2. 発達障害の作業療法実践に必要な代表的理論を列挙できる。
3. 発達障害の作業療法において代表的理論の概要を説明できる。
4. 発達障害の作業療法評価につなげるための発達像の捉え方を理解できる

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 発達領域作業療法の理論 概説 |
| 第2回 | 正常運動発達の神経学的機構 1 |
| 第3回 | 正常運動発達の神経学的機構 2 |
| 第4回 | 正常運動発達の神経学的機構 3 |
| 第5回 | 正常運動発達の神経学的機構 4 |
| 第6回 | 発達像の描写と分析（運動発達障害） |
| 第7回 | 社会性の発達理論 1 |
| 第8回 | 社会性の発達理論 2 |
| 第9回 | 作業療法の6つの理論 |
| 第10回 | Moseyの適応技能の発達理論 |
| 第11回 | Ayresの感覚統合理論 各感覚の受容器と伝導路 |
| 第12回 | Ayresの感覚統合理論 感覚統合の発達段階と最終産物 |
| 第13回 | その他の理論（応用行動分析論等） |
| 第14回 | 発達像の描写と分析（精神発達障害） |
| 第15回 | まとめ 発達期を対象とした「作業」に焦点を当てた作業療法の考え方 |

評価方法

筆記試験（70％） レポート（20％） ノート整理（10％）

教科書

イラストで見る発達障害の作業療法（医歯薬出版）

参考図書・文献

発達過程作業療法（医学書院） 作業療法の6つの理論（協同医書出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

現象を解釈するために必要な理論的枠組みを学びます。講義時間以外に引用文献や関連文献を読み込んで作業療法の基盤となる諸理論の理解を深めて下さい。

科目名	日常生活活動学						
担当講師	高橋 正基 山川 志野 岡崎 謙治						
実務経験の概要	高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義 演習 グループワーク 発表 オムニバス						

授業概要

身体障害領域・精神障害領域における、作業療法士としての日常生活の関わり方を講義と実技を通して学ぶ。
臨床において作業療法を実践するための理論や技術を学ぶ。

学修到達目標

1. 身体障害領域における作業療法士としての日常生活の関わり方について、自己の考えを述べることができる。
2. 精神障害領域における作業療法士としての日常生活の関わり方について、自己の考えを述べることができる。
3. 各種実技内容に関して、他者に実施することができる。

授 業 計 画

第1回	A D L 評価の視点 (ADL分析) : 食事・整容	山川志野
第2回	A D L 評価の視点 (ADL分析) : 食事・整容	山川志野
第3回	A D L 評価の視点 (ADL分析) : 更衣・排泄	山川志野
第4回	A D L 評価の視点 (ADL分析) : 更衣・排泄	山川志野
第5回	A D L 評価の視点 (ADL分析) : 入浴・その他	山川志野
第6回	A D L 評価の視点 (IADL分析) : 炊事	山川志野
第7回	A D L 評価の視点 (IADL分析) : 洗濯・掃除	山川志野
第8回	A D L 評価の視点 (IADL分析) : 買い物・公共交通機関利用	山川志野
第9回	A D L 評価 : Barthel Index (BI) ・ Functional Independence Measure (FIM)	山川志野
第10回	A D L 評価 : その他のADL・IADL評価	山川志野
第11回	A D L 実技① : 寝返り～起き上がり～立ち上がり介助	高橋正基
第12回	A D L 実技② : 寝返り～起き上がり～立ち上がり介助	高橋正基
第13回	A D L 実技③ : 移乗介助	高橋正基
第14回	A D L 実技④ : 移乗介助	高橋正基
第15回	A D L 実技⑤ : 歩行・車椅子駆動介助	高橋正基
第16回	A D L 実技⑥ : 歩行・車椅子駆動介助	高橋正基
第17回	A D L 実技⑦ : まとめ	高橋正基
第18回	自助具について	高橋正基
第19回	精神障害領域におけるADL	岡崎謙治
第20回	A D L と I A D L 精神科領域の視点	岡崎謙治
第21回	地域生活における社会資源	岡崎謙治
第22回	まとめ、グループ学習 (精神科関係の歴史の流れ、社会資源の流れ)	岡崎謙治
第23回	グループ発表	岡崎謙治

評価方法

筆記試験 100% (高橋担当分: 20% 山川担当分: 50% 岡崎担当分: 30%)

教科書

日常生活活動の作業療法 (中央法規) 姿勢と動作 (メヂカルフレンド社)

参考図書・文献

新版 日常生活活動学 (医歯薬出版)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実習の要素が多いので繰り返しの確認が必要です。

科目名	短期実習Ⅰ						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	90	開講時期	前期
授業形態	実習						

授業概要

作業療法参加型臨床実習の携帯をとり、見学・模倣・実施の中でも見学を主体としています。臨床教育者のもと作業療法場面の見学を通し、一連の作業療法過程を知ることを目的としています。

学修到達目標

1. 作業療法場面（臨床技能）の見学を通して、作業療法過程を述べることができる。
2. 臨床教育者からの説明を受け、その情報の意味を関連付けることができる。
3. 臨床教育者からの指導を受けながらリハビリテーションチームの一員としての行動をとることができる。
4. 作業療法過程の見学を通して、自己の学習課題を述べるができる。
5. セミナーを通して、他者の情報も併せて整理し、述べるができる。

授 業 計 画**実習期間**

令和8年9月7日(月)～令和8年9月18日(金) (10日間)

実習施設

医療提供施設

実習内容

1. 臨床技能（情報収集、面接、観察、検査測定、治療、再評価）場面の見学
2. 臨床教育者から説明を受け、情報の意味や関連性をまとめる
3. 臨床教育者からの指導を受けながらリハビリテーションチームの一員としての行動をとる
4. 日々の自己の取り組みを振り返り、修正する

実習後セミナー

- ・グループごとに実習課題をまとめ、プレゼンテーションを行う。
- ・教員とのフィードバック面談を行う。

評価方法

実習地評定（30%）、セミナー評定（20%）、記録物（30%）、フィードバック評定（20%）を踏まえて総合評価を行い

教科書

なし (配布資料あり)

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実習課題のみならず、用語や疑問、興味があることについては主体的に学習し、実習後の講義につなげられるよう取り組んでください。